



非常用兼用型低NOx・高効率コージェネレーションシステムを新発売

川崎重工は、自社開発の1.7MW級ガスタービン「M1A-17D」を駆動源とした高効率コージェネレーションシステム「PUC17D」の非常用兼用型を開発し、営業活動を開始しました。

非常用兼用コージェネレーションシステムは、通常時には都市ガスなどのガス燃料を使用して電力を供給する一方、停電時にガス燃料の供給が途絶えた場合は、自動的に液体燃料へ切り替えて非常用の照明設備など重要な機器に電力供給を継続します。このため専用の非常用発電設備を設置する必要がなくなり省スペース化、イニシャルコストとメンテナンスコストの低減、さらに機器システムの簡素化が図られるなどのメリットがあります。

今回開発したシステムは、DLE燃焼方式（ドライ・ロー・エミッション＝水や蒸気の噴射によらずに燃焼温度を低く制御することでNOx排出量を削減する燃焼方式）により、NOx値を50ppm（O₂=0%換算）まで低減。また排熱ボイラの性能向上により総合効率は5.3ポイント向上しました。さらにシステム単体での自立運転中でも負荷急変に対応して低NOx運転を継続できるDLE燃焼システムも開発しました。

大規模災害の備えとして、BCP（事業継続計画）の策定が進んでいますが、被災による停電時のライフライン維持や復旧支援のためにコージェネレーションシステムでも非常用兼用型のニーズが高まっています。

川崎重工では、今後も市場のニーズに応える製品を開発していきます。



「インターモト2014」に「Ninja H2R」など3機種を出品



Ninja H2R



Versys 650



Versys 1000

川崎重工は、ドイツ・ケルン市で10月に開催された欧州最大級のモーターサイクルショー「インターモト2014」に、2015年ニューモデルである「Ninja H2R」「Versys 650」「Versys 1000」の3機種を出品しました（「Ninja H2R」については、今号「Special Feature」を参照）。

「Versys 650」は、いつでも、どこでもファンライディングが楽しめるモデルスポーツで、外観を一新してKawasakiらしいスポーティーでアグレッシブなデザインを採用。高さ調整可能なウィンドスクリーンを採用や燃料タンク容量のアップにより、快適性と利便性が向上しました。

また、「Versys 1000」は、Versysシリーズの上位モデルで、「650」同様に外観を一新。高回転域まで心地よく吹けあがる4気筒エンジンと、ロングストロークサスペンションといった基本構成を継承しつつ、スポーツモデルの「Ninja ZX-6R」などに採用されているアシスト&スリッパークラッチを標準搭載することで、クラッチレバーの操作性を容易にするとともに、急激なエンジンブレーキによるリアタイヤのホッピングを防ぐなど操作性と安定性が一段と向上しました。



新開発の15万5000m³型LNG運搬船を三井物産から受注

川崎重工は、三井物産株式会社との間で、LNG運搬船2隻の造船契約を締結しました。川崎重工坂出工場で建造し、2017年から2018年にかけて引き渡される予定です。なお本船は、三井物産が米国で開発を進めるキャメロンLNGプロジェクトで、日本を中心とした需要家へのLNG輸送に投入される予定です。

今回受注したLNG船は、川崎重工が新たに開発した2軸船で、15万5000m³のカーゴタンク容積を持つモス型（球形タンク型）LNG運搬船です。船体寸法は世界の主要なLNGターミナルに入港可能で、2016年に完成予定の新パナマ運河を通峡可能な型幅を維持しつつ

も、モス型のカーゴタンクを備えた汎用性の高い船型とし、LNG貿易の多様化に対応します。

さらに、船体構造の最適化による船体重量の軽量化や、2軸推進方式の採用と船体形状の最適化を図ることで、推進性能を最大限に高めるとともに、DFD電気推進システム^{*}を採用することにより、低速域から高速域の幅広い船速域で優れた燃費性能を発揮します。

^{*}DFDとはDual Fuel Diesel（2元燃料ディーゼル）の略で、通常の発電機エンジンは燃料として油しか使いますが、このエンジンは油とガスの両方を焚くことができます。推進システムは、数台の発電機エンジンと可変速の推進モーター等で構成されています。ガスあるいは油を燃料としてエンジンに供給し、発生した電力で推進モーターを回し、この動力をプロペラへ伝えます。

最新の技術・製品情報をお届けします



船舶海洋



車両



航空宇宙



ガスタービン・機械



プラント・環境



モーターサイクル & エンジン



精密機械

HOT TOPICS



ボーイング787向け世界最大級のオートクレーブが完成



川崎重工は、ボーイング社の最新鋭旅客機「787ドリームライナー（以下 ボーイング787）」の増産に対応するため、世界最大級のオートクレーブ（複合材硬化炉）を完成させ、名古屋第一工場内で2014年度末の竣工をめざして建設中の新工場に2号炉として導入する作業を進めています。

完成したオートクレーブは、直径9m、全長30m、総重量が920tの世界最大級のもので、川崎重工グループの川崎エンジニアリングが設計を取りまとめ、川崎重工が組立・製作したものです。川崎重工は、ボーイング787の生産において「前部胴体」「主脚格納部」「主翼固定後縁」を担当しています。完成したオートクレーブは、前部胴体の生産に用いられ、複合材を積層した一体成形の前部胴体を高温高圧で焼き固めることで、強度にムラがない高品質な製品を安定的に生産することができます。



トルクメニスタンで最新ガス化技術による世界最大のGTG製造設備を受注



川崎重工は、トルクメニスタンの国営公社であるトルクメンガスから、天然ガスを燃料として最新のガス化技術により高品質なガソリンを製造する世界最大のガス・ツー・ガソリン（GTG）製造設備を、トルコの建設会社であるルネッサンス社とのコンソーシアムで受注しました。川崎重工は、コンソーシアムのリーダーとしてプロジェクト全体の取りまとめと製造設備全体のエンジニアリング、さらに機器の供給を担当します。ルネッサンス社は、土木工事と製造設備の組み立てを担います。

今回受注した設備は、デンマークを拠点として世界中に化学プロセス技術・触媒を提供しているハルダール・トプソー社の最新技術を採用します。天然ガスからガソリンを製造する際のガソリンの精製工程を簡素化でき、また天然ガスを原料とすることで従来の原油燃料設備とは異なり温室効果ガスの排出を抑制しながら高品質ガソリンを製造できます。

製造設備は、トルクメニスタンの首都アシカバード市北部に位置するオバダンデベ地区に建設されます。製造設備の稼働開始は2018年の予定で、天然ガスを燃料として年間60万tの高品質ガソリンを製造します。なお、本件受注に際しては、双日株式会社の協力を得ています。

Dow Jones Sustainability Indices

In Collaboration with RobecoSAM

社会的責任投資指数

「Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index」に2年連続で選定

川崎重工は、社会的責任投資（SRI）の代表的な指数の一つである「Dow Jones Sustainability Indexes (DJSI)」のアジア・太平洋版である「DJSI Asia Pacific Index」の対象銘柄として2年連続で選定されました。

DJSIは、米国のS&P Dow Jones Indices社とRobeco SAM社（スイスの資産運用コンサルティング会社）が作成している世界を代表するSRI

で、事業業績だけでなく環境への取り組み、社会貢献などの観点から企業の持続可能性を評価・選定しています。企業の社会的責任に関心を持つ世界中の投資家にとって、投資の際の重要な選択基準の一つになっています。「DJSI Asia Pacific Index」は、日本・アジア・オセアニア地域を対象とした指数で、同地域における主要600社から上位148社（うち日本企業65社）が選定されています。